

( 本封 議員 通告書 4 枚のうち、1 枚目)

NO. 個-8

令和 6 年 11 月 20 日  
午前 10 時 40 分受領

令和 6 年 11 月 20 日

丹波篠山市議会議長 様

会派名

氏 名 本多 紀元



## 一般質問通告書

<input type="checkbox"/> 種類	代表質問 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 個人質問
<input type="checkbox"/> 方式	一括方式 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 一問一答方式

次のとおり通告します。

質問事項 1	ローカルインフルエンサーの発掘と連携について
指定答弁者	<input checked="" type="checkbox"/> 市長 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 教育長

### 【質問の要旨】

SNS や YouTube 等の情報発信の影響力は、日々高くなってきており、兵庫県知事選挙においては、その効果が顕著にあらわれました。これからの時代において、インターネットでの情報発信、特に、SNS を活用した情報発信の重要性はさらに高まることが予想されます。

本市においては、これまでも PR 動画の制作やインターネットでの情報発信を積極的に行われてきていることと存じますが、これまで以上に取り組みを強化していく必要があるのではないのでしょうか。

そこで、まず質問です。

- (1) 現在、丹波篠山市が実施している、もしくは委託している SNS (Instagram、YouTube 等) による情報発信で主な取り組みと、フォロワー数を教えて下さい。
- (2) 今後、SNS による情報発信の強化、充実についてどのように考えておられるのか、市の考えを伺います。

次に、ローカルインフルエンサーの発掘と連携についてです。

- ※質問の要旨は、具体的に記載すること
- ※代表質問の場合は、会派名を記載すること
- ※極力、全文原稿を添付すること

( 本誌 議員 通告書 4 枚のうち、2 枚目)

ローカルインフルエンサーとは、地域に密着し、その地域の魅力や情報を SNS や YouTube などのデジタルプラットフォームを通じて発信する個人やグループを指します。彼らは地域に深い理解と愛着を持ち、地元ならではの視点で情報を発信するため、フォロワーとの共感を得やすく、発信力が高いのが特徴です。

丹波篠山市内にも、特産品や観光地、地元のイベント情報などを自主的に発信している市民が多くいると考えられます。こうした人々を「ローカルインフルエンサー」として位置づけ、自治体が公式に連携を図ることで、地域の情報発信力をさらに高めることができるのではないのでしょうか。

ローカルインフルエンサーを発掘し、連携することで様々な効果が期待できます。

1 つは、地元愛をベースとしたリアルな情報発信ができることです。

地元住民が発信する情報は、自治体の公式発信よりも親近感を持って受け取られることが多く、フォロワーとの深いエンゲージメントを生む可能性があります。

2 つ目は、継続的で頻度の高い情報発信ができることです。

複数人のローカルインフルエンサーと連携し、活動してもらうことで、継続的かつ多くの情報発信が期待できます。

3 つ目は、市民の情報発信の意識の醸成です。

発信者が地元住民であることで、他の市民にも「自分たちの地域を応援しよう」という意識が広まり、新たなローカルインフルエンサーの発掘や地元情報のさらなる発信、ひいては、地域全体の一体感が強化されます。

他にも様々な効果が考えられると思いますが、重要なのはこれからの時代においてどのような SNS 戦略を考えるかということです。

本市においては、予算が限られる中で、継続的かつ効果的な SNS による情報発信が必要になってきます。職員での情報発信も重要ですが、人的コストが懸念されます。そんな中で、市民と市が一体となって SNS で情報を発信することは、今後発信される情報量においても、コスト面においても有意義なものになるのではないのでしょうか。

ローカルインフルエンサーの発掘と連携について、市の考えをお伺いします。

質問事項 2	さらに魅力のある YouTube チャンネルを
指定答弁者	市長 ・ 教育長

※質問の要旨は、具体的に記載すること

※代表質問の場合は、会派名を記載すること

※極力、全文原稿を添付すること

**【質問の要旨】**

現在、市では視聴覚ライブラリーの事業として、地域映像の収集と活用に取り組みされており、毎年地域映像を 20 本以上制作し、保存・活用することを成果指標としてあげられ、実際には毎年 30 本以上の地域映像の制作をされています。

その甲斐もあり、現在、動画がアップロードされている YouTube チャンネル「丹波篠山市視聴覚ライブラリー」は、3000 人を超える方がチャンネル登録をされています。

表 1 兵庫県下の市の公式 YouTube チャンネル登録者数

1.神戸市	2.姫路市	3.西宮市	4.川西市	5.豊岡市
201000	10100	7340	5420	4480
6.尼崎市	7.明石市	8.丹波篠山市	9.赤穂市	10.伊丹市
4370	3590	3110	2660	2650

これは、兵庫県下の各市の公式 YouTube チャンネル登録者数と比較した場合、8 番目に多いチャンネル登録者数です。1 位は神戸市、2 位は姫路市と、人口の多い地域が上位に位置する中で、丹波篠山市は明石市に次いでチャンネル登録者数が多いのです。

これから、動画コンテンツによる情報発信がますます重要になることは言うまでもありませんが、改めて、この強みを活かした事業の拡充を検討するべきではないでしょうか。

令和 5 年度の決算では、視聴覚ライブラリー事業に割り当てられている予算は 180 万円で、その殆どは機材の修繕や購入に充てられています。動画撮影と編集のほとんどが職員の少ない人員で進められている中で、事業の拡充は難しいと考えられます。

地域にはまだまだ魅力的なイベントや出来事、まちづくりの取り組みがあり、それらを映像として記録し、配信するためには、改めて、地域映像の収集と活用の手法を見直すことも検討するべきではないでしょうか。

**※質問の要旨は、具体的に記載すること**

**※代表質問の場合は、会派名を記載すること**

**※極力、全文原稿を添付すること**

( 本々 議員 通告書 4 枚のうち、4 枚目)

映像の収集においては、具体的には、既存の丹波篠山市関連の YouTube チャンネルおよび動画の一元化や、市内諸団体との連携による動画配信、映像撮影・制作の外部委託などがあげられます。

また、チャンネル登録者数を増やす取り組みとしては、チャンネルの認知度をあげる PR 活動や、より魅力的な動画制作の企画があげられます。

このような取り組みも検討していきながら、丹波篠山市の YouTube チャンネルをさらに魅力的なものにしていくことで、地域住民の郷土愛のさらなる醸成や、丹波篠山市の歴史と文化を後世に残していくことにつながると考えますが、地域映像の収集と活用について、市の考えをお伺いします。

※質問の要旨は、具体的に記載すること  
※代表質問の場合は、会派名を記載すること  
※極力、全文原稿を添付すること

( 桐村 議員 通告書 3 枚のうち、 / 枚目)

NO. 個-9

令和 6 年 11 月 20 日  
午前 11 時 25 分受領

令和 6 年 11 月 20 日

丹波篠山市議会議長 様

会派名 ー

氏 名 桐村 裕一



## 一 般 質 問 通 告 書

■種類	代表質問 ・ <input type="checkbox"/> 個人質問
□方式	一括方式 ・ <input type="checkbox"/> 一問一答方式

次のとおり通告します。

質問事項 1	子どもの体験格差をなくすために
指定答弁者	<input type="checkbox"/> 市長 ・ <input type="checkbox"/> 教育長
<p>【質問の要旨】</p> <p>学校教育は、すべての子どもに平等な学びと体験を提供する場のはずです。しかし、現実には心身や家庭環境の違いによって、子どもたちが得られる体験には大きな格差が存在しています。</p> <p>この体験格差という課題は子どもの権利の保障の観点からも大変重要な部分であります。子ども基本法第3条では、「子どもの最善の利益が尊重」されることや「子どもの意見が適切に尊重」されるという基本理念が示されています。</p> <p>しかし、不登校などの場合、学校に通えないことによって学びや体験の機会が欠如するため、子どもの最善の利益や、学校がしんどいという子どもの意見が尊重されている状況とは言い難いのではないのでしょうか。</p> <p>丹波篠山市では「だれ一人取り残さない教育」を目指されていますが、まだ十分な状況ではないと考えています。学校に通えない子どもたちの個別最適化の学びのための提案を行います。</p> <p>1-1 空き教室を使った新たな校内居場所（ワクワク教室）づくりを</p> <p>不登校の子どもたちにとって、学校という場所に足を踏み入れることは難しく、そのため学習という観点では、学びの体験格差が大きくなっています。不</p>	

※質問の要旨は、具体的に記載すること  
※代表質問の場合は、会派名を記載すること  
※極力、全文原稿を添付すること

安を抱えた学校に通えない子どもたちが、いつかは今のスタイルの学校に行かなければならないという固定観念の脱却のための居場所が必要と考えます。

不登校の子どもたちの気持ちは、「不登校児の実態調査」によると、無気力・不安。学校が楽しくない。勉強がわからない。友達とうまくかかわれない・いじめられる・行事が苦痛。先生を信頼できない、嫌い、自分を苦しめる敵となっている。というものです。

このような、子どもたちの心の回復に向けて、市教育委員会では、令和6年4月より校内サポートルームを中学校・小学校3校で実施されています。しかし、だれ一人取り残さない丹波篠山市の教育という観点からは、全ての小中学校にさらにきめ細やかな対応が早急に必要です。

そこで、子どもたち権利や意見の尊重を重視していくために、また、ゆめハウスの利用者が急増している現状やひとり親家庭の保護者による送迎の大変さを解消するため、全ての小・中学校に「自由でワクワクする教室」の設置を提案します。

「ワクワク教室」では3つの教室を設けます。

1. 子どもの体験格差をなくすために勉強や心のフォローを行う個別の教室
2. 心の課題ややりたいことへのフォローを行う集団で活動する教室
3. 不安を感じている保護者もいつでも自由に交流することができる教室

この3つの教室の運営には市内在住の教育者OBを雇用しつつ、不登校の支援を行っている民間の市指定事業者も含めて連携することが効果的であると考えます。

このような保護者も自由にいつでもそこに入ることができる「ワクワク教室」(3つの居場所)の実施で、不登校の子どもにとっても学校が楽しい場所になると考えます。不登校等の支援は大変な課題であることから官民共が連携して学校を支えていくことも必要であると考えますが、教育長の考えをお伺いします。

## 1-2 個別最適な学びのために必要な調査及び保護者への情報公開を

子どもたちが学びたい形で学べる環境を作っていくことで学びの格差は少なくなっていくと考えられます。その一つの方法としてICTを活用した学びが有効です。ICTを活用した学びを進めていくために、メタバースの現段階の課題や方向性の公開、不登校までにはなっていないけれども学校に通いにくい子のきめ細やかなZOOM対応、不登校によって孤立化しやすい保護者への学校の状況のZOOM報告や説明、さまざまな理由で学校に足が向きにくい子どもへの個別最適化な対応をオンラインで行っているのかなどの情報を保護者へ公開していくことで、子どもの自由な選択でその子どもに合った学びが行えるようになります。

※質問の要旨は、具体的に記載すること

※代表質問の場合は、会派名を記載すること

※極力、全文原稿を添付すること

考えます。

しかし、私の周りでは、必ずしも学校に行くことが目的ではないが、周りとはかかわりを持ちたいと考える不登校の子どもや、病気で登校できない子たちやその保護者の中から、そういった対応がない学校があるという声を聞いています。そのため各学校の対応の状況を調査し、市内の保護者に対応状況を情報提供することが望ましいと考えますが、教育長のお考えをお伺いします。

### 1-3 先生方が本音を言える環境のために、働き方改革だけでなく働く場改革を

先生方の心の状態が子どもの体験格差に大きな影響を与えると云われますが、先生方の働き方を変えるためには、学校の体質・先生方全体の意識・学校の働き場の環境を変える必要があります。

文科省が実施している「#教師のバトン」プロジェクトでは、SNS 上に教師が様々な思いを投稿されています。また、私も先生方から様々なご意見を直接お聞きしました。

その中には、「学校は子どもの居場所としては配慮されているけれども、先生の働く場所としての配慮は十分でない」との声もありました。子どもの課題において大人が変われば子どもも変わると言われることがあります。同じ様に大人にとっても働く場が変われば働き方が変わると感じます。

また、「先生方の教育の質の向上や負担軽減は、雰囲気がいい職員室だけでなく業務に集中できる場を整えることが大切で、そのためには、先生にもストレス軽減のための休む場が必要である。更衣室などで横になれる場所やハンモックなどリラックスできる場所。また、じっくり考えたいときに周りを気にせず過ごせる場所や体調不良時に横になって休むことができる場所が必要であり、こういった小さな配慮の具現化の積み重ねが、先生の教育に関する意欲にもつながり、それが子どもたちの心の発達にも大きな影響を与える。」というものでした。

この意見はあくまで一部の先生のものですが、学校における子どもの体験格差をなくすためには、先生方に対してもしっかりとした配慮が必要であると考えます。

そこで、SNS 等を活用したアンケートを先生に行い、現場の先生方によって市内の学校におけるさまざまな課題を洗い出し、働く場への配慮を行うことが、ひいては子どもの体験格差解消、不登校等の改善に関与していくと考えますが、教育長のお考えをお伺いします。

NO. 110 - 10

令和 6 年 11 月 20 日  
午前 11 時 37 分受領

令和 6 年 11 月 20 日

丹波篠山市議会議長 様

会派名 -

氏名 降矢 杏奈



## 一般質問通告書

<input type="checkbox"/> 種類	代表質問 ・ <input type="checkbox"/> 個人質問
<input type="checkbox"/> 方式	一括方式 ・ <input type="checkbox"/> 一問一答方式

次のとおり通告します。

質問事項 1	働きながら子育てしやすい丹波篠山の未来と地域創生
指定答弁者	<input type="checkbox"/> 市長 ・ <input type="checkbox"/> 教育長
<p><b>【質問の要旨】</b></p> <p>少子化が加速する中、子育て支援の充実で「選ばれるまち」を目指す自治体が広がっています。働きながら子育てしやすい環境を整えることは、自治体の未来にとって非常に重要です。また、安心して子どもを産み育てるために、自治体からの支援は大きな支えとなります。そして子育てと女性の活躍を両立しやすい環境を整えることで、地域全体の活力を高め、地域創生を実現することができます。</p> <p>そのためには、まず具体的施策として、保育園等の申し込みにかかる利用調整基準の見直しが必要です。具体的な基準の透明化と公平な調整プロセスを確立することで、利用者の負担を軽減し、より多くの家庭が安心して子育てに専念できるようになります。</p> <p>一方で、こども家庭庁では、2021～2024 年度までの 4 か年計画である「新子育て安心プラン」にて、待機児童の解消を目指し、女性の就業率の上昇を踏まえた保育の受け皿整備、地域の子育て資源の活用を進めるための包括的なプランを打ち出しています。本市にとっても有用なプランであると考えますが、丹波篠山市では「新子育て安心プラン」の申し込みを行っていません。その理由について明確な説明を求</p>	

※質問の要旨は、具体的に記載すること  
※代表質問の場合は、会派名を記載すること  
※極力、全文原稿を添付すること



めます。

2024年4月の調査によると、待機児童数は減少していますが、地域ごとの状況には依然としてばらつきが見られます。特に、全国の市区町村の約87.5%で待機児童ゼロを達成している一方で、待機児童問題が根強く残る地域も存在します。本市での令和6年度の待機児童・保留児童の状況は、保育の必要性の認定を受け、保育所等の申し込みをしているが入所できていない待機児童数1名、入所希望者や特定園希望者、就労予定待機児童に含まれず保育所等の申し込みをしているが入所決定がされていない保留児童数95名となります。

また、内閣府による調査では、女性の労働力人口は増加しており、多くの女性が就業を希望しています。これは、男女共同参画の意識が社会全体に浸透しつつある証拠でもあります。しかし、日本の女性の労働市場への進出はまだ遅れており、特に政治や経済分野での格差が顕著です。世界各国の男女間の平等に関する調査で、日本は146か国中118位と、去年の125位から順位を7つ上げましたが、「経済」と「政治」の分野で女性の進出の遅れが際立っています。特に議員や政府高官、それに企業の管理職に占める女性の割合は14.6%と、去年より1.7ポイント増えたものの、各国の中では130位で「日本の重要な役職における男女格差は依然として顕著だ」と指摘しています。

このような背景を踏まえ、自治体は子育てと女性の活躍を両立するための施策を積極的に推進し、地域全体の活力を高める努力を続ける必要があります。

以上のことを踏まえて、以下の点について具体的な見解をお聞かせください。

- 透明性と公平性の確保: 保育園等の利用調整基準の透明化や公平な調整プロセスについてどのように取り組んでいるか
- 「新子育て安心プラン」に関する見解: 市が「新子育て安心プラン」の申し込みを行っていない理由
- 女性の活躍支援: 女性の就業と子育ての両立を支援するための具体的な施策について

「選ばれるまち」を目指すためにも子育て支援になお一層力を入れ、働きながら子育てしやすい丹波篠山の未来の実現が地域創生に繋がると考えますが、市長・教育長の見解をお聞かせください。

※質問の要旨は、具体的に記載すること  
※代表質問の場合は、会派名を記載すること  
※極力、全文原稿を添付すること

(渡辺 議員 通告書 2 枚のうち、/ 枚目)

NO. 110-11

令和 6 年 11 月 20 日  
午前 11 時 40 分受領

令和 6 年 11 月 20 日

丹波篠山市議会議長 様

会派名 -

氏名 渡辺拓道



## 一般質問通告書

<input type="checkbox"/> 種類	代表質問 ・ <input type="checkbox"/> 個人質問
<input type="checkbox"/> 方式	一括方式 ・ <input type="checkbox"/> 一問一答方式

次のとおり通告します。

質問事項 1	地域振興基金とイベント重視行政からの転換について
指定答弁者	<input type="checkbox"/> 市長 ・ <input type="checkbox"/> 教育長
<p>【質問の要旨】</p> <p>過去の一般質問において丹波篠山国際博の予定事業費を確認しましたが、それ以降も事業費が拡大してきており、現実的に基金を活用しないと予算が組めないようになってきていると捉えています。</p> <p>特に減少してきている地域振興基金の充当が考えられていることを心配しています。</p> <p>もともと、地域振興基金は、合併特例債を積み上げて造成し、その果実をもって合併前町区域の進行と新市の一体感醸成に役立てるとしました。その後、国よりハード事業への活用も可能との通知がされました。</p> <p>一方、本市では、その目的に加えて財政再建の保険的位置づけで当初の積み立て 20 億円をできるだけ維持して財政の安定を図ってきたところであります。</p> <p>ところが、景観刷新モデル事業での活用以降に取り崩しが増え、基金は 10 億円程度まで減少してきています。</p> <p>財政調整基金が大きく積み上げられない状況において地域振興基金が減少していくことは、災害などの不測の事態が起きた時に不安な市財政になっていくと考えます。</p> <p>① 過去には 20 億円には極力手を付けないとの暗黙の規則的なものがあった</p>	

※質問の要旨は、具体的に記載すること  
※代表質問の場合は、会派名を記載すること  
※極力、全文原稿を添付すること

と思いますが、今になってみると積戻しは容易ではない状況です。そこで、新たな基金維持基準を定めるべきでないかと考えます。

自治体の観光商業等の振興策として、イベントを積極的に活用する時代が続いてきましたが、時代は変わりつつあります。本市においても、秋の味祭りを数日のイベントで行っていたものをなくして、秋の期間に平準化して日常化していくことで地域振興が進んだ好例があります。

多額の一般財源をもちいたイベント型振興からは転換していくべきではないでしょうか。

- ② 国際博オープニングのプロジェクションマッピングをオープニング以降も継続していきたいとの意向が示されていますが、継続のためにどの程度の費用が必要なのか、市として継続していくのか、その場合の財源的課題を解消できる目途はあるのでしょうか。
- ③ また、丹波篠山 ABC マラソンにも課題がでてきています。現在工夫を凝らして改善が図られようとしています。今回の募集状況はどうなっていますか。運営補助の増大や運営市民スタッフの負担感、通行規制による市内経済活動への影響などそろそろその継続について踏み込んだ検討が必要な時期にあると考えますが、その見解を伺います。

( 稲山 議員 通告書 4 枚のうち、 / 枚目)

NO. 個 - 12

令和 6 年 11 月 20 日  
午前 11 時 45 分受領

令和 6 年 11 月 20 日

丹波篠山市議会議長 様

会派名

氏名 稲山 悟



## 一般質問通告書

<input type="checkbox"/> 種類	代表質問 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 個人質問
<input type="checkbox"/> 方式	一括方式 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 一問一答方式

次のとおり通告します。

質問事項 1	桜ビジョン策定の進捗状況と今後の展開方向について
指定答弁者	<input checked="" type="checkbox"/> 市長 ・ 教育長
<b>【質問の要旨】</b> 丹波篠山市公式観光情報・ぐるり丹波篠山には、市内の桜の人気スポットとして、篠山城跡、王地山公園、春日神社、大山オカメザクラ、草山温泉大谷橋、西岡屋・有居、宮田川、国道 173 号線の桜並木、下立杭公民館、般若寺と曾地中の一本桜が掲載されるとともに、丹波篠山市ロマン街道・さくら街道マップには、市内のさまざまな桜の名所が紹介されており、これら以外にも市内の各地域の公民館、学校、堤防などに数多くのサクラの木が植えられています。 丹波篠山市の風景とも溶け合い、山のサクラから里のサクラまで、丹波篠山市全域がサクラの里であり、長い歴史もあることから、平成 16 年 4 月、「丹波篠山市の木」に制定されています。 こうしたなか、令和 5 年 10 月、丹波篠山市桜ビジョン検討委員会が設置され、サクラの管理に関わっておられる多くの皆さんなどによって、丹波篠山市の木であるサクラを将来につなげる地域ビジョン（桜ビジョン）の策定に向けて、熱心に取り組まれています。策定に向けてのこれまでの取組状況ならびに策定後の取り組みの展開方向について、お伺いいたします。	

- ※質問の要旨は、具体的に記載すること
- ※代表質問の場合は、会派名を記載すること
- ※極力、全文原稿を添付すること

- (1) 現在策定中の丹波篠山市桜ビジョンについて、基本理念、めざす将来像、また、将来像の実現に向けて、どのような方策が検討されているのか、具体的にお聞かせください。
- (2) 令和5年9月、丹波篠山市内にあるサクラの状況を把握するため、自治会長の皆さんなどに聞き取りをされています。その結果について、地区別の本数・樹種・管理主体・管理方法について、お聞かせください。  
また、それら以外に篠山城跡や国県の道路沿いなどにも植栽されているサクラを含めると丹波篠山市内には総数どれくらいの本数があるのか、お聞かせください。
- (3) 令和6年1月、丹波篠山市に植えられているサクラの生育状況ならびに管理状況について、現地調査をされています。その調査の結果、また、自治会長の皆さんへの聞き取りにおいて、どのような課題を把握され、今後、どのような方策で課題を解決されようとしているのかをお聞かせください。
- (4) 今後、策定される丹波篠山市桜ビジョンを受けて、令和7年度以降、丹波篠山市として、まず取り組まなければならないことは何だとお考えでしょうか。また、どれくらいの期間をかけて、ビジョンで掲げられる将来像をめざそうとされるのかをお聞かせください。
- (5) 丹波篠山市桜ビジョンの将来像を実現するためには、サクラを大切にしたい関係者の皆さんと方向性を共有したうえで、その実現に向けての資金・財源をどう確保していくかという課題が出てきます。資金・財源について、これまで実施されてきたガバメントクラウドファンディングを含め、どのように確保されていく予定とされているのかをお聞かせください。
- (6) 桜の愛護・普及などの全国組織として公益財団法人日本さくら協会があり、同協会との連携や同協会が実施されている事業を活用することも有効ではないかと考えます。これまでの同協会の事業の活用状況ならびに今後の活用予定をお聞かせください。
- (7) 宇土里づくり協議会では、宇土地区にある12種類のサクラを紹介する「宇土さくら図鑑」を作成されています。自らの住んでいる地域を知るとともに、地域でサクラを保全していこうという趣旨からも大変よい取り組みだと思えます。今後、このような取り組みを市内の自治会や各種団体・会社などにも積極的に進めることで、地域や職場周辺のサクラの啓発と管理にも有効な方策のひとつではないかと考えます。今後、広げていくようなお考えがあるのかについてお聞かせください。
- (8) 現在、丹波篠山市内のサクラの保護・育成には、ささやま桜協会、商工会青年部をはじめ多くの団体に関わっていただいています。それぞれの団体において、テング巢病の処理、桜守育成講座、さくらめぐりなどが開催されていま

※質問の要旨は、具体的に記載すること

※代表質問の場合は、会派名を記載すること

※極力、全文原稿を添付すること

す。今回の丹波篠山市桜ビジョンの策定を契機に組織を一本化したり、テング  
巢病に感染しやすいソメイヨシノから丹波篠山らしいサクラの樹種への変更  
などを検討してはと考えます。市長の見解をお聞かせください。

(9) 丹波篠山市桜ビジョンが策定された後、その理念や思いを未来に繋げるた  
めの方策はどのようにお考えでしょうか。

滋賀県草津市では、桜を活かしたまちづくりを推進するため「草津市桜憲  
章」を制定されており、桜ではありませんが、福井県小浜市では「鯖を愛す  
るまち宣言」を制定されています。

今回の桜ビジョンの策定を機に例えば「丹波篠山市サクラ憲章」、「丹波篠  
山市桜を愛でるまち宣言」などを制定し、市民・事業者の皆さんとの共有す  
る道しるべにしてはと考えます。市長のお考えをお聞かせください。

質問事項 2	丹波篠山茶の振興と茶園の景観を未来に引き継ぐために
指定答弁者	市長 ・ 教育長

【質問の要旨】

近畿経済産業局「令和2年度地域ブランディング実践支援事業」として「丹  
波篠山茶ブランド戦略アクションプラン案」が公表されています。この事業の  
申請者は丹波ささやま農業協同組合ではありますが、この案には丹波篠山市は  
「丹波篠山黒豆」を筆頭にさまざまな地域資源のブランディングに成功してお  
り、「1市1農協」という強い連携があると掲載されています。

また、丹波篠山国際博のPR動画の初めには美しい茶畑の映像が使われてお  
り、丹波篠山茶は未来に引き継がなければならない丹波篠山市の大切な財産で  
あると考えます。

そこで、丹波篠山茶の振興と茶園の景観を未来に引き継ぐための取り組みに  
ついて、市長の見解をお伺いします。

(1) アクションプラン案の推進体制として、JA丹波ささやま・丹波篠山市・  
商工会・観光協会等による「PR戦略委員会」があげられ、丹波篠山茶生産  
組合と連携しながら一体的に取り組むとされています。これまでのPR戦略  
委員会の開催回数・審議事項・主な意見や提案などについて、お聞かせくだ  
さい。

(2) アクションプラン案の目的には、「丹波篠山茶の生産継続の実現」、「丹波篠  
山茶のブランド力向上の実現」の2つが掲げられ、現状を分析したうえで、  
短期戦略・中長期戦略も示されています。

これまでの取り組み状況ならびに令和7年度以降の取り組み計画につい

※質問の要旨は、具体的に記載すること

※代表質問の場合は、会派名を記載すること

※極力、全文原稿を添付すること

( 稲山 議員 通告書 4 枚のうち、4 枚目)

て、具体的にお聞かせください。

(3) 丹波篠山市農都創造計画では、丹波篠山茶の販路拡大の方策として、消費・流通拡大のため、学校給食での利用促進、大国寺と丹波茶まつりの開催による産地のイメージアップが掲げられ、これまで市をあげて精力的に取り組まれています。

しかしながら、コシヒカリ・黒大豆・山の芋・丹波栗には栽培に対する財政的な支援がなされていますが、丹波篠山茶の栽培ならびに美しい茶園を維持・管理していくための財政支援がないのが現状であります。

農都篠山の一角を担っている丹波篠山茶の栽培にもある程度の財政的な支援が必要と考えます。市長の見解をお聞かせください。

※質問の要旨は、具体的に記載すること  
※代表質問の場合は、会派名を記載すること  
※極力、全文原稿を添付すること

( 岡 議員 通告書 | 枚のうち、 | 枚目)

NO. 個-13

令和 6 年 11 月 20 日  
午前 11 時 50 分受領

令和 6 年 11 月 20 日

丹波篠山市議会議長

会派名 ー

氏名 岡 圭子



## 一般質問通告書

■種類	代表質問 ・ <input type="checkbox"/> 個人質問
□方式	一括方式 ・ <input type="checkbox"/> 一問一答方式

次のとおり通告します。

質問事項 1	視覚障がいの方及び外国人住民の情報取得について
指定答弁者	<input type="checkbox"/> 市長 ・ 教育長
【質問の要旨】	別紙のとおり
質問事項 2	防災対策ツールの導入を
指定答弁者	<input type="checkbox"/> 市長 ・ 教育長
【質問の要旨】	別紙のとおり

※質問の要旨は、具体的に記載すること  
※代表質問の場合は、会派名を記載すること  
※極力、全文原稿を添付すること



## 1. 視覚障がいの方及び外国人住民の情報取得について

「障害者による情報の取得及び利用並びに意思疎通に関する法律案」が令和4年5月に施行されました。いわゆる障害者情報アクセシビリティ・コミュニケーション施策推進法案と言えます。これは障がいの有無に関わらず、全ての人が共に歩み社会の一員として共生する事を目指して施行された法律です。具体的には障がいのある人がない人と同様に十分な情報を取得・利用し、円滑な意思疎通が行えるように総合的な施策を推進する事を目的としていますが特に視覚障がいの方は情報を得ることに苦勞されていると思います。そこで、音声コード読み上げソフト「ユニボイス」の導入を提案いたします。この提案は以前にも他の議員から一般質問がありましたが、実現に向け今回の私の質問とさせていただきます。

丹波篠山市には朗読ボランティアの方や点字サークルの方が活動してくださっています。朗読、点訳ボランティアでは市の広報等の刊行物、新聞記事等を録音したものをお届けされています。また点字サークルの皆さんは単行本、エッセイを点訳した小説などを図書館に寄贈されたり、市広報・議会だより、ごみ分別カレンダーの点訳、点字指導など様々な活動をされています。

しかし、視覚障がいの方が必ずしも点字を読めるわけではありません。内閣府ホームページ「視覚障害のある方のための「音声コード」について」には、「多くの方が主に音声や拡大文字によって情報を得ている」とあります。そのため、自宅に届く自治体からの重要な書類も中の内容まで分からずに捨ててしまったという方もいると伺いました。

更に内閣府のホームページには「補助者による代読やパソコンの音声読み上げソフトを用いる方法のほか、文字内容をコード情報(音声コード)に変換して印刷したものを活字文書読み上げ装置を使って音声化する方法があります。」とあります。この音声コードは SP コードというもので特別な装置が必要になり、携帯電話で読み取ると正しく読み上げることができないそうです。

しかしながら、新しく開発されたユニボイス音声コードならスマートフォンで無料アプリをダウンロードして読み取りが可能で、インターネット環境も不要です。これは、特定非営利活動法人日本視覚障害情報支援協会(JAVIS)が開発したもので、文字を二次元コードに変換するためにはユニボイスコード専用の音声コード生成アプリが必要ですが、自治体や公益社団法人には無償貸与されます。スマホだけで簡単に音声で聞くことができるため視覚障がいのある方だけではなく、高齢者にも優しいアプリであると思います。

加えて、ネット環境も不要であり対応言語は日本語のほか 20 言語以上が可能であることから外国人にも必要なアプリであると考えます。

本市でも外国人住民は 2022 年度末には 1,000 人を超え人口の 2.5%と増加しています。

10月からは外国人の相談窓口も設置されこれから相談も増えてくるかと思われませんが、相談窓口を設置したことの周知事態も難しいのではないのでしょうか。このユニボイス音声コードを活用することで、自治体からのお知らせなども伝えることができるのではないかと考えます。

以上のことを踏まえまして、市からの公的な書類について、視覚障がいの方や外国人住民の情報取得にユニボイス音声コードの活用、普及を早急に進めるべきだと考えますが市長の見解をお聞かせください。

## 2 防災対策ツールの導入について

地震などの自然災害は、いつ、どこでおこるかわかりません。日頃から市民一人ひとりが、防災対策をしておくことで、被害を少なくすることができると思います。自分の身を守る取り組みとして、下記の提案をします。

### ①避難カードの導入を

兵庫県では、「マイ避難カード」の作成を推進しています。これは災害時に「いつ」「どこに」「どのように」避難するのかを予めカードに記入し、いざという時に役立つためのカードです。

いろいろな情報をもとに、どのタイミングで避難するかなどは、住んでいる地域、場所により違いがありますが、「マイ避難カード」を作成することで、住民自身がハザードマップ等を確認し、実際に自分がどこに避難すべきかをあらかじめ認識することが可能となります。

また、個人情報や連絡先を記入する「避難所カード」というものもあります。これは、災害が発生し避難所に避難する必要がある場合、避難所での受付を迅速に行うとともに、避難生活に必要な対応(食事の手配、薬の手配など)を迅速に実施するためのもので、自分以外の緊急連絡先や、持病、常備薬、アレルギーの有無などを書いておくものです。

これらのカードを作成し、市民自ら行える「防災への備え」の1つとして、市役所窓口を設置してはどうでしょうか。また、広く周知する意味でも、病院や処方箋薬局にも設置してはとありますが、見解を伺います。

「マイ避難カード」は兵庫防災ネットでも登録可能とのことで、市内の登録者数は11月19日時点で75人、まだ少ないようです。紙媒体で、市役所窓口を設置することにより、より広く、多くの人の目に留まる可能性が高まり、より広く周知ができるのではないかと考えます。

また、市内には沢山の外国人も住んでいます。外国人の方にむけても、各母国語にあわせた避難者登録カードを作成して窓口を設置してはどうかと考えますが、見解を伺います。

### ②ゲームで学ぶ防災プログラムについて

これは、避難所運営をゲーム形式で模擬体験するもので、地震や台風などの災害が発生した際にどう対応するか、どのような知識を身につければよいのかを学べる教材ツールです。カードゲームやスマートフォンアプリなどがあり、家庭や学校、自治会、市のイベントと幅広いシーンで活用さ

れています。丹波篠山市においても、この防災ゲームプログラムを市民の防災意識を向上させるツールとして導入してはどうでしょうか。

内閣府の防災情報のページでは、阪神淡路大震災で災害対応にあたった神戸市職員の声をもとに作られたカードゲーム、クロスロードの詳細を紹介しています。これはカードに記載されている問題に対して、イエスかノーで答えて進める簡単なゲームで、さまざまな意見や価値観を共有し、理解を深めることが可能となっており、子ども向け、大人向けなど無料でダウンロードできるものがたくさんあるようです。

カードゲームを利用する最大の利点は、ゲームで学ぶことで、楽しく身につくところです。

丹波篠山市では、毎年定期的に各地域や学校で避難訓練を開催されているのに加え、防災担当部署の職員は、小学校に出向き、防災の授業をするなどの取り組みを進められていますが、それらにも利用可能と考えます。

楽しく学べる「ゲームで学ぶ防災プログラムの導入」について、検討してはどうかと考えますが、見解を伺います。

( 小島 議員 通告書 4 枚のうち、 | 枚目)

NO. 個-14

令和6年 11月 20日  
午前 11時 55分受領

令和6年 11月 20日

丹波篠山市議会 議長 様

会派名

氏名 小島 政行



## 一般質問通告書

<input checked="" type="checkbox"/> 種類	代表質問 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 個人質問
<input type="checkbox"/> 方式	一括方式 ・ 一問一答方式

次のとおり通告します。

質問事項 1	「美しい農村、未来へ」の取り組みについて
指定答弁者	<input checked="" type="checkbox"/> 市長 ・ 教育長

### 【質問の要旨】

令和6年度の施政方針では「美しい農村、未来へ」をテーマに掲げて、丹波篠山国際博やワクワク農村未来プラン等の取り組みを進めていくとされていることは、これからの時代の大切なテーマであると共感するところです。

一方で、主役の農村集落の方にすれば何をどうすれば未来へつなげられるのか？ワクワク農村とはどのようなことがワクワクするのか？具体的な施策が思い浮かばずに、実際の行動につながっている地区は少ないと思います。

テーマとされている「美しい農村、未来へ」一歩でも近づけるためには、まずは地域住民が自分たちの地域の課題について認識・共有し、課題解決に向けた取り組みを行うことが大切であると考えます。

多くの住民に課題解決につながるよう意識を持ち、行動していただくことが、将来に向けた希望となってワクワク農村につながると考えます。

現在、各支所に地域をサポートするための地域振興担当者を配属され、ワクワク農村未来プランの推進やコミュニティセンター等の管理とともに、支所の各種業務を担っています。新型コロナウイルスによって、縮小した地域活動をどのように回復させていくか、そして、これからの地域づくりをどのように進めていくか、を改めて考える時期にきています。しかしながら、支所の窓口業

- ※質問の要旨は、具体的に記載すること
- ※代表質問の場合は、会派名を記載すること
- ※極力、全文原稿を添付すること

務をしながら、地域へ出向いての情報収集や、課題解決に向けた取り組みの支援をすることは至難の業だと思います。そこで農村集落の取り組みをさらに加速させるためにも、地域の実情をよく知る市職員 OB を地域サポーターとして登用してはとありますが市長の見解をお聞かせください。

また、地域課題の取り組みに重要な組織である「まちづくり協議会」を伴走支援しながら、先の地域サポーターと連携するとともに様々な活動をコーディネートする専門性ある人材が必要と考えますが、市長の見解をお聞かせください。

また、酒井市長の市政の功績として日本遺産、日本農業遺産、ユネスコ創造都市、伝統的建造物群保存地区の選定など沢山の認定がされました。この冠を十分に活かすことで更に魅力ある丹波篠山市と発展すると考えますが、どのような方法で取り組みをされるのかについてお考えをお聞かせください。

質問事項 2	健康寿命延伸の取り組みについて
指定答弁者	市長 ・ 教育長

**【質問の要旨】**

今回、私は入院を経験し、医療従事者による懸命な努力のおかげで日常生活に戻ることができました。そして健康の重要性を考える良いきっかけとなり、そこで病気などで入院や介護のお世話にならない、自分のことは自分で生活できる健康寿命の延伸について質問をさせていただきます。

健康寿命は、医療や介護に頼らず、日常生活をほぼ自分で営める期間のことで、「要介護 2 以下の自立に近い状態で生活できる期間」を指します。

2021 年度の丹波篠山市の健康寿命（平均自立期間）は健康課からの資料によると男性が 79.8 歳、女性が 84.8 歳です。2017 年度からは、男性で 0.7 歳、女性で 0.5 歳延びています。

兵庫県の数値と比べると、男性が 0.1 歳、女性が 0.2 歳低く、全国と比較すると男性が 0.1 歳高く、女性は同じとなっています。

一方、丹波篠山市の平均寿命と健康寿命の差、つまり介護等が必要な期間は、男性が 1 年間で女性が 2.5 年間となり、県と比べると男性が 0.4 年間長く、女性は県と同じ 2.5 年間です。また国と比べると男性が 0.1 年間長く、女性が 0.3 年間短くなっています。

厚生労働省の「人口動態統計」によると、1989 年において死亡数が最も多かった年齢は男性で 79 歳、女性で 81 歳でしたが、2018 年においては、男性で 85 歳と 6 歳の伸び女性で 91 歳と 10 歳も伸びています。

また、65 歳の人々が 90 歳、100 歳まで生存する確率を見ると、2040 年におい

- ※質問の要旨は、具体的に記載すること
- ※代表質問の場合は、会派名を記載すること
- ※極力、全文原稿を添付すること

ては男性の42%が90歳まで、女性の20%が100歳まで生存すると見られます。さらに、海外の研究では、2007年に生まれた我が国の子どもの半数が、107歳より長く生きることも推計されています。以上のように平均寿命が伸びていますが、健康で暮らすには健康寿命延伸の取り組みが必要です。

厚生労働省は、健康無関心層も含めた予防・健康づくりの推進と、地域・保険者間の格差の解消に向け、「自然に健康になれる環境づくり」や「行動変容を促す仕掛け」など「新たな手法」も活用し、「次世代を含めたすべての人の健やかな生活習慣形成」「疾病予防・重症化予防」「介護予防・フレイル対策、認知症予防」の3分野を中心に取り組みを推進することとしています。

健康寿命延伸の実現に立ちはだかる主な課題としては、「食塩（ナトリウム）の過剰摂取」、「若年女性のやせ」及び「経済格差に伴う栄養格差」があります。我が国を含む東アジアでは、ナトリウムの多量摂取が最大の食事因子となっています。

2019年の国民健康・栄養調査では、健康関心度を把握するための指標として、食習慣改善の意思を把握されています。食習慣を「改善することに関心がない」又は「関心はあるが改善するつもりはない」と回答した者の合計の割合は、男性41.1%、女性35.7%でした。

また、食塩摂取量を「健康日本21」の目標である8gを基準に群分けしてみると、1日の食塩摂取量が8g以上の群において、食習慣改善の意思がない者の割合は男女とも約6割を占めていました。

一方、学校給食では、社会の要請を受けて少しずつ変わってきています。文部科学省は2018年、「学校給食実施基準」を改正し、学校給食の栄養素ごとの摂取量を見直しました。ナトリウム（食塩相当量）は8歳～9歳で2g未満（改正前は2.5g未満）、12歳～14歳で2.5g未満（改正前は3g未満）と「減塩」傾向が強まっています。基準の改正を話し合った専門家の会議では、「学校給食のある日」の方が「学校給食のない日」よりも適切に栄養を摂れていることがわかり、学校給食が子どもたちの健康の増進や体力の向上を図るだけでなく、「家庭における日常の食生活の改善を図る」のに参考になると指摘されています。

将来の介護費用や医療費などの社会保障費を抑制するためにも、死因の6割を占める「生活習慣病」を予防し、健康寿命を延ばす必要があります。

よく会話をする・適度な運動・十分な睡眠・何にでも興味を持つことなどが良いとされていますが、以下の健康寿命延伸の取り組みについて市長、教育長の見解をお尋ねいたします。

1. 次年度の高齢者大学の年間学習計画で一般教養講座シリーズとして例えば、認知症や軽度認知障害（MCI）、骨粗しょう症等の講座を複数回開催してはどうか。

※質問の要旨は、具体的に記載すること

※代表質問の場合は、会派名を記載すること

※極力、全文原稿を添付すること

( 小島 議員 通告書 4 枚のうち、4 枚目)

2. 学校教育の中で、子どもへの健康に関する教育の充実をしてはどうか。
3. 市の広報で定期的に健康寿命延伸についての記事を掲載し、啓発をしてはどうか。
4. 集落の公民館等で高齢者と子ども達のふれあいの場づくりを行う自治会・老人会・子ども会へのスタート支援をしてはどうか。

最後に、丹波篠山市民の健康寿命が延伸することで、医療費や介護費用等が削減されることによる市の財政効果をお知らせください。市民の健康寿命延伸による医療費等の削減の取り組みが大切と考えますが、市長の見解をお聞かせください。

※質問の要旨は、具体的に記載すること  
※代表質問の場合は、会派名を記載すること  
※極力、全文原稿を添付すること